

Access

第 56 号

2024年(令和6年)3月1日

黒部市の国際化教育を振り返って

黒部市教育委員会

教育部長 藤田 信幸

平成 18 年4月、合併後の新しい「黒部市」の最初の配属先が教育委員会の学校教育課でした。旧黒部市と旧宇奈月町が共同で申請し、平成 17 年 11 月に認定された「黒部国際化教育特区」として「英会話科」を小中学校の全学年で初めて実施する国際化教育を担当しました。

ALTが一挙に7人に増え、彼らの雇用や生活支援、小学校英会話講師(JAT)や中学校英会話講師(JET)の雇用、各校への配置や調整といった初めての業務に加え、旧黒部市と旧宇奈月町で一つ一つ異なる事務処理を調整しながら、時間のかかる作業に連日深夜まで黒部市役所宇奈月庁舎で過ごしていたのを思い出します。

授業の進め方やカリキュラムについては、教育センターの指導主事だった上野郁行先生が中心になって、担任教諭・ALT・JAT・JETを指導しておりました。当時は参考にすべき先行事例がほとんどなく、すべてが初めての手探り状態でしたが、富山大学の岡崎浩幸先生から適宜ご指導いただき、拠り所としていました。

ALTらとは、お互いに自由に意見を出し合い、指導内容から教材作成まで「最初から一緒に作っていく」という仲間意識もあって、よくALT宅でパーティーをしたり飲みニケーションしたりした楽しい思い出がありますが、今はそういう機会が少ないように感じます。

英会話科が軌道に乗り始めた平成 19 年度からは、英語サマーキャンプや姉妹都市のオランダ・スネーク市やアメリカ・メーコン市の生徒と相互に訪問交流する事業が始まりました。以

前、市の国際交流事業で知り合ったスネーク市の友人や、インターンをしていたメーコン市役所と桜祭り実行委員会の友人を頼ることができたのは幸いでした。そういう機会に恵まれたのも、YKKの両市における長年の信頼に負うところが大きいのです。

13 年ぶりに教育委員会に戻り、国の方針に対応しながら各事業が受け継がれ、本市の国際化教育の発展を目にすることは感慨深いものがあります。特に、令和4年 11 月に中学生をメーコン・ビブ郡に引率したときや令和5年 10 月にビブ郡教育委員会の関係者と小学校訪問したときの、児童生徒が物怖じせずコミュニケーションしようとする積極的な態度に感動しました。

さて、私自身、多少かじってきたつもり英語を学び直しています。筋金入りの日本語訛りの発音、聞き取れる言葉を拾い集めて類推するというリスニング(実はリスニングをしていない)を脱却したいと思っています。「自分で発音できない音は聞き取れない」という当たり前のことを今さら実感し、ネイティブ特有の音声変化(連結、脱落、同化)を意識しながら耳と口を鍛えています。今どきは便利なもので、ユーチューブなどで手軽に学ぶことができます。

今後、AIによる翻訳ソフトがいかに関達しても、お互いの表情と生の声で世界の人々とコミュニケーションすることの楽しさに勝るものはありません。それを子供たちに伝えることも教員の重要な役割だと思います。そのためにも、自ら楽しさを体験することが大切だと思います。

国際理解教育公開研修会

中央小学校 教諭 松田 小百合

10月31日、国際理解教育公開研修会を行いました。黒部市が進めてきた黒部国際化教育の基本方針に則り、「共生」に重点を置いて研究を進めてきました。本研修会では、3つの公開授業と講演を通して研修を深めました。

〈 第1学年 生活科「たのしいあき いっぱい」 〉

秋の生き物を見付けたり、どんぐりや松かさで遊んでおもちゃをつくったりなど「秋見付け」を友達と十分に楽しみました。その体験を、学級の友達だけでなく、上級生や先生、交流をしている台湾の小学生等に伝えたいという思いを高めました。相手のことを思い浮かべながら絵や写真、動画等、思いを伝える方法を話し合いました。生活科での学習を通して、台湾の児童と交流したり、秋の様子や相違を見付けたりしながら異文化に興味や関心をもつ機会となりました。



〈 第4学年 外国語活動「ほしいものは何かな?」 “What do you want?” 〉



買い物場面を設定し、ほしいものを尋ねたり答えたりして「家族にオリジナルカレーをつくる」という活動に取り組みました。これまでに慣れ親しんだ食材の言い方や「What do you want?」等を使って楽しくコミュニケーションを取りました。目的に応じて自分の思いを伝えることで、コミュニケーションの素地の育成や異文化理解に繋がりました。

〈 第5学年 学級活動「何でもできる!何でもなれる!」

目指せ!『〇〇な最高学年』プロジェクト〉

目指す最高学年像をイメージして「なりたい自分」を決めるための話し合いを行いました。事前の意識調査を学級児童だけでなく、6年生にも実施したことで最高学年に向けての意識を高めました。6年生からの「6年生のメッセージ」の手紙から、具体策について一人一人が思いをもって発言しました。互いに認め合いながら、児童が意思決定する場となりました。



〈 講演会「国際理解教育のこれから」 東部教育事務所 主任指導主事 浦田 栄信先生 〉

富山県や黒部市の国際化の現状について、在住外国人の国名や日本での困り感等の身近な話題を通して教えていただきました。「自他の文化を尊重しグローバル化に主体的に関わる児童の育成が大切である」「共に生きようとする態度は国際『理解』や異文化『理解』があって初めて『共生』意識が生まれることを大事にしてほしい」「自分事として日常でのちょっとした国際的な話題を取り上げる『プチ国際理解』を積み重ねていくことが大切である」ということをご指導いただきました。

今後も一人一人を大切にする人権教育を基盤として、自他を理解し合うという相互理解の教育を進め、友達と共に学び合う楽しさ、児童自らが学びを実感できる授業づくりを通して「共生」の精神を育てていきたいと考えています。また、「プチ国際理解」を実行していきたいと思いました。

第2回保護者会



12月2日(土)に中央小学校にて第2回保護者会を行いました。11家族24人の参加がありました。

前半は、空きピンを使ってスノードームを作りました。糊水の中でキラキラと舞うラメやビーズの様子にうっとりしながら、思い思いのデコレーションをし、スノードーム作りを親子で楽しみました。



後半の懇談会では、「国語の読む力を付けさせたいのだけれど、みなさんの家庭ではどうしていますか?」「日本の学校に入るための手続きはどうしたらよいですか?」「海外では〇〇だったけれど、日本の学校ではどうですか?」等、日頃の日本での子育てについて気になることが話題になりました。令和5年度末に「海外・帰国児童生徒のためのハンドブック第8版」を発刊予定です。日本での子育てについてのアドバイスや海外で生活されたことがある方々からの生の声を集めたハンドブックとなっています。何か不安なことがありましたら、ぜひ、このハンドブックをご覧ください。また、在籍している小中学校、教育センター、YKK 相談室まで遠慮なくご相談ください。

子供たちはフルーツバスケット、じゃんけんゲームなどのレクリエーションをして盛り上がりました。

保護者会は、**毎年6月第3週の土曜日(1回目)、12月第1週の土曜日(2回目)**に開催しています。お気軽にご参加ください。



国際理解 ちよつといい話



「見ようとしないと始まらない」



国際社会に関する意識や関心を高めようと、新聞記事の紹介や国際化に関するデータを提示する機会をつくってきました。子供たちが興味を示したのは、「海外勤務がある会社が多くあり、その上位に地域や家族と関わりの深いYKKが入っていたこと」「オンライン留学というものが増えていて、海外に行かなくても外国の学校で学ぶことができること」でした。

また、各自のタブレットで興味をもった国を紹介するカードをつくりました。情報が多岐に渡り、知っているようで知らなかったことが多く、楽しいものでした。少し見るだけでたくさんの発見がありました。

国際化は普段の生活の中にも多く存在していて、機会あるごとに意識していない部分を刺激したり、情報を更新したりすることが大切なのかもしれません。

(中央中学校 教諭 牧田 静代)

「国際理解」の入り口は、身近なところに



毎週水曜日の昼の放送は「ケイティ先生の English Time」。ALT のケイティ先生が、JAT の中村先生と一緒にアメリカの文化について教えてくださいます。クイズでは、子供たちは正解発表に大盛り上がりです。新しい発見があるこの時間を、子供たちは心待ちにしています。

ケイティ先生と子供たちが、英語の学習以外で一緒に活動する機会が何度かありました。最近では、校内書き初め大会です。慎重な筆づかいで「広い世界」と書くケイティ先生の様子を、そっと見つめる子供たちのまなざしが印象的でした。

メディアからの様々な情報に触れる機会が多く、外国についてのイメージを、よくも悪くももっている子供たち。そんな中でも、身近な外国の方と直接話すこと、一緒に活動することは、イメージよりもはるかに互いを理解することにつながっていくのだなと感じています。

(黒部市立生地小学校 教諭 中坪 尚世)

国際理解に関する楽しい 掲示物を貸し出しています!!

黒部市教育センターでは、文化や生活習慣の違いを知る機会を広げることをねらいとし、黒部市全体の小・中学校に国際理解に関する掲示物を貸し出しています。

☆☆対象☆☆
黒部市内小中学校

☆☆貸し出しの方法☆☆
1つのテーマの掲示物の大きさは100cm×100cm程度です。掲示板のスペースをご用意ください。教育センターの担当者が掲示物の設置・回収に伺います。



帰国されたご家族、外国人のご家族のみなさんへ

黒部市帰国児童生徒教育研究会では、年に3回、交流の機会を設けています。気軽にぜひご参加ください。

第1回保護者会【6月下旬】

保護者のみなさんに集まっていただき、情報交流していただいています。

(対象：未就学児、小学生、中学生の保護者)

サマースクール【7月下旬～8月上旬】

黒部市の名所をバスで巡り、親子で体験活動を行います。例：紋切り遊び、かまぼこの絵付け、陶芸教室

(対象：小学生の親子)



第2回保護者会【12月上旬】

親子で工作やクッキングを楽しんだ後、情報交流していただいています。

(対象：未就学児、小学生の親子)



詳しい日程や活動内容などは、その都度お知らせしています。